

日本画ワークショップを開催しました

2025 年 9 月 19 日(金)

「岩絵具と膠(にかわ)で日本画を描こう」と題したワークショップを開催しました。

本ワークショップは、日本美術院地域連携教育プログラムの一環として実施されたもので、日本美術院所属の日本画家の先生方をお招きし、中学生 80 名、高校生(美術選択者 97 名)を対象にご指導いただきました。

テーマは、地元で 600 年の歴史を誇る「尾張津島天王祭」や江戸時代に描かれた文化的価値の高い「津島祭礼図屏風」に着想を得たものです。祭りで耳にした「音」を抽象的に表現し、日本の伝統的な絵画技法や美意識を体験的に学ぶとともに、文化への理解と想像力を育むことを目的としています。

先生方がご用意くださった絵具は、なんと 140 色以上！岩絵具や膠の扱い方に加え、“デカルコマニー”や“吹き流し”といった「モダンテクニック」と呼ばれる方法も紹介されました。その後、生徒たちは「天王祭の音」をテーマに抽象画の制作に取り組みました。

最初は指で絵具を溶くことに戸惑っていた生徒たちも、次第に慣れ、岩絵具ならではの輝きや質感を楽しみながら、自由に表現を広げていきました。

「それ、どうやって描いたの?」「すごくいい色だね!」といった声が飛び交い、友達同士のやりとりを通じて表現の幅がどんどん広がっていく様子がとても印象的でした。抽象表現という新しいジャンルに触れ、美術の奥深さを実感した生徒も多かったようです。

今回制作された作品はすべて、秋の院展(松坂屋美術館／名古屋栄)にて、大英博物館所蔵「津島祭礼図屏風」の複製画とともに展示される予定です。

このような貴重な学びの機会をくださった日本美術院の先生方に、心より感謝申し上げます。



美術担当 則武由絵